

1人1台専用タブレット端末を活用した 新しい時代の新しい学び

学校でも…家庭でも…校外でも…



すべての子どもたちの学びを豊かに…

急速な情報通信技術の進展やグローバル化など、変化の激しい社会においては、自ら疑問をもち、主体的に課題を解決しようとしたり、多様な考えや学び方を共有したりするなど、自分から「学び続ける」ことが一層重要になります。タブレット端末は、新しい学びのツールとして、学校だけでなく家庭や校外学習など、「いつでも、どこでも」使うことができます。

これからの時代を担う子どもたちが、タブレット端末の活用場面を自ら選択して、効果的かつ日常的に使いこなすことで、一人ひとりの学びがより豊かになることを期待しています。



※GIGA (Global and Innovation Gateway for All) スクール構想では…

- 1人1台専用端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する。
- これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す。

※文部科学省「GIGAスクール構想による1人1台端末環境の実現等について」より引用

杉並区立学校における1人1台専用タブレット 端末を活用した「新しい時代の新しい学び」

1 杉並区教育ビジョン2022「みんなのしあわせを創る杉並の教育」の実現に向けて

杉並区基本構想

みどり豊かな住まいのみやこ
【学び】共に認め合い、みんなでつくる
学びのまち

重点的な取組
ICTを活用した学校教育の質の向上

杉並区総合計画・杉並区実行計画

【施策 22】 学び続ける力を育む学校教育の推進
【施策 23】 多様なニーズに応じたきめ細かな教育の推進

重点的な取組
学び続ける力の育成
ICTを活用した教育の推進

杉並区立学校タブレット端末活用方針

杉並区教育ビジョン2022

みんなのしあわせを創る 杉並の教育

一人ひとりが当事者として認め合いながら、協力して社会を創り、担うこと、そして支えること。

【私たちが大切にしたい教育】

学び合い、信頼をつくり、共に生きる

学びは、不思議に思う気持ちや好奇心などのセンス・オブ・ワンダーから始まります。かわりを前提とした学び合いを通じて信頼が育まれ、教え合う関係が確かなものになります。

【一人ひとりが教育の当事者として心がける視点】

①子どもの思いを尊重する

②ちがいを 受け入れる

ちがいを認め合い、自分らしく生きる

誰もが自分の個性を大切に、自分らしく生きるためには互いに尊重し合うことが必要です。他者の個性に気づき、人々の多様性を知り、認め合う関係をつくることが大切です。

③対話を大切にする

④学びの成果を贈り合う

誰もが社会の創り手として生きる

誰もが教育の当事者であり、学びを通して自分らしく生きるための力を育むとともに、持続可能な社会の担い手となります。さらに、誰もが幸せになる社会の創り手として生きることにつながります。

⑤社会を創る当事者として考える

杉並区 教育ビジョン2022 推進計画

2 各学校におけるタブレット端末活用の段階 ～導入・充実・変容・創造～

区立学校における1人1台専用のタブレット端末の活用について、①導入・②充実・③変容・④創造といった段階で示しています。**導入段階**では、まずは使ってみて、デジタルのよさを知ります。**充実段階**では、活用場面を広げ、選択して使います。**変容段階**では、学びのデジタル・プラットフォームを使いこなし、学びをより豊かにします。そして、**創造段階**では、新しい学びを創っていきます。このように、効果的かつ日常的にタブレット端末を活用することで、子どもたちの学びを豊かにします。

導入

まずは使ってみる・よさを知る

児童・生徒が、教員が、まずは様々な場面でタブレット端末を使ってみる。デジタルのよさを知る。

充実

活用場面を広げる・選択する

児童・生徒が、教員が、活用を広げ ICTの特性や必要に応じて選択して使う。

効果的な活用

変容

学びのデジタル・プラットフォームで学びを豊かにする

学習ログ(学習履歴)を活用して個別最適・協働的な学びを実現する。デジタル・プラットフォームで学校と家庭、地域がつながり学びを豊かにする。

情報モラル

日常化

創造

新しい学びを創る

児童・生徒も、教員も、日常的にデジタルデバイスを活用し、学校という枠にとらわれることなく社会とつながる新しい学びを創造する。

文房具として活用



杉並区立学校タブレット端末活用方針

1 タブレット端末活用の基本的な考え方

これからの学びは、先生から「教えてもらう」だけでなく、自分から「学び続ける」ことが一層大切になります。これを実践していく上で、学校だけでなく家庭や校外学習でも、鉛筆やノートと同じように、新しい文房具として、「いつでも、どこでも」活用できるタブレット端末は有効なツールとなります。

このタブレット端末を用いて、自ら考え、主体的に問題を解決しようとしたり、考え方や学び方を共有するツールとして効果的かつ日常的に活用したりすることにより、すべての子どもたちの学びを豊かに、そして生涯にわたって学び続ける力を育んでいきます。

そのためにも、タブレット端末と学習支援ソフトやデジタル教材を効果的に活用し、一人ひとりに応じた学びと他者と協力する学びを推進します。さらに、教職員がICTを日常的に活用し、より質の高い授業を展開するICT活用指導力の向上と教育のDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進します。

基本的な考え方 1

子どもたちがタブレット端末を鉛筆やノートと同じように、新しい文房具として、いつでもどこでも自由な発想で活用できるようにし、子どもたちが探究の主体となって学び続ける力を育みます。

基本的な考え方 2

教職員が学習ログ(学習履歴)や学級経営状況などのデータを活用して、すべての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学び(子ども一人ひとりに応じた学び)と協働的な学び(他者と協力する学び)の実現を図ります。

基本的な考え方 3

オンラインホームルーム、オンライン会議、オンライン学習及びオンライン情報連絡システムなど、学校をプラットフォームとして家庭、地域がつながり、教育の当事者としてかかわることができるよう、教育のDXを推進します。

2 タブレット端末活用を通して大切にしたい姿

子ども 学び続ける力を育む

タブレット端末を活用して 自分なりに学びを進める

自分で学習の見通しを立てたり、学習の理解度に応じて学習方法を考えたりすることで、学習者主体で個別・多様な学びを進めていく。

タブレット端末を活用して みんなで協力して学ぶ

自分なりに進めた学びが、子ども同士や、多様な他者とつながることにより、互いの感性や考え方などに触れて刺激合い、対話的で深い学びにつなげる。

タブレット端末を活用して 「いつでも、どこでも」学び続ける

いつでもどこでも必要な時に、自ら学んだり、他者とつながりをもったりしながら、自由な発想で活用することにより、子ども自身が探究の主体となって学び続ける。

タブレット端末を活用して ICT活用のスキルやモラルを身に付ける

情報活用についてのルールやマナー、情報セキュリティの重要性を主体的に考え、ICT活用のスキルや情報モラルを身に付けられるように学びを進めていく。

教職員 子どもの可能性を引き出す

タブレット端末を活用して 個別最適な学びと協働的な学びを実現する

学習者用デジタル教科書や学習コンテンツ、学習ログ(学習履歴)の活用、遠隔学習の推進などによって、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる。

タブレット端末を活用して 学級経営と学習指導を充実する

これまで培ってきた知見や経験に加え、学級経営状況等に関するデータを活用・分析し、子どもの状況や変化を捉えて学級経営と学習指導の充実を図る。

タブレット端末を活用して 保護者や家庭と連絡・連携を図る

オンラインを活用した文書配布やアンケートなど、教育活動に関わる情報等を保護者・家庭と共有し、良好で円滑なコミュニケーションを図る。

タブレット端末を活用して 学校経営や働き方改革につなげる

オンラインを活用した教育活動やAI自動採点機能の活用などにより、創意工夫ある学校経営と教職員の働き方改革の推進につなげる。

家庭・地域 つながる・かかわる

タブレット端末を活用して オンラインにより学校とつながる

子どもたちの欠席・遅刻連絡や学校だよりの閲覧など、オンラインを活用した取組によって学校との連絡・連携を図り、コミュニケーションを深める。

タブレット端末を活用して 教育の当事者としてかかわる

子どもたちの学習状況や生活の様子など、様々な情報を共有することで、学校と家庭・地域が共に子どもの学びを支え、教育の当事者としてかかわる。



1人1台専用タブレット端末を活用した「学びの デジタル・プラットフォーム」(学習eポータル)

いつでもどこでも自ら学び続ける

すべての子どもが「学びのデジタル・プラットフォーム」(学習eポータル) 上のコンテンツを用いて、いつでもどこでも自ら学び続ける。

学習ログと学級経営

シングルサインオンによりユーザー習履歴) や習熟度などの膨大なデータ、指導に生かす。

状況などのデータ連携

管理を行い、日常的な学習ログ(学習履歴) を活用して、多面的に学力を捉え、指導に生かす。

学校と家庭、地域がつながる

児童・生徒、教員、保護者及び外部人材等が「学びのデジタル・プラットフォーム」(学習eポータル) でつながり、連携・協働を深める。

学校における学び

校外における学び

家庭・地域とのつながり

個別最適な学び

タブレット端末を日常的に活用し、AI型学習ドリル等を用いた学習や、一人ひとりの学習定着度に応じた課題に取り組む。

【主なアプリ・コンテンツ】
navima ミライシード

協働的な学び

学習支援ツールを活用して、自分の考えや表現、学習記録をグループや学級全体で共有して、対話的に学び合う。

【主なアプリ・コンテンツ】
ロイロノート SchoolTakt

探究的な学び

デジタル百科事典や新聞データベースなどの探究ツールを用いたり、インターネットを活用したりした探究的な学びを進める。

【主なアプリ・コンテンツ】
インターネット検索ツール

校外学習

カメラ機能(写真・動画)を用いて活動の様子を記録したり、必要な情報を収集したりして、様々な学習に活用する。

【主なアプリ・コンテンツ】
ロイロノート ミライシード

欠席連絡・アンケート

欠席等の連絡や保護者へのアンケートなど、オンラインの活用により、学校と家庭の間の連絡の円滑化・効率化を図る。

【主なアプリ・コンテンツ】
Microsoft Forms

お知らせ・プリント配布

学校からのお知らせやプリント配布など、オンラインの活用により、学校と家庭の間の情報共有の円滑化・効率化を図る。

【主なアプリ・コンテンツ】
Microsoft SharePoint

遠隔学習

他校の児童・生徒や外部専門家等と、オンラインでつながったの交流活動や連携授業を行う。

【主なアプリ・コンテンツ】
Microsoft Teams

デジタルならではの学び

動画や音声等のコンテンツや、紙の教科書にないデジタル教科書の機能を活用することで、多様な学びが可能となる。

【主なアプリ・コンテンツ】
学習者用デジタル教科書 eboard

プログラミング

自ら課題を見出し、プログラミング教材やアプリケーション、ロボット等を用いて試行錯誤することで、論理的思考力を育む。

【主なアプリ・コンテンツ】
Root オーロラクロック

情報モラル

タブレット端末の使い方やネットの危険性など、情報社会に関する技術や思考を身に付け、情報を正しく使いこなす方法を考える。

【主なアプリ・コンテンツ】
情報モラル教材

タブレット端末をいつでもどこでも、自由な発想で活用し、子どもたちが探究の主体となって、生涯にわたって学び続ける力を育む。

家庭や校外での学習でも、活動を記録したり、情報を収集したりできる。また、校外学習や修学旅行、移動教室における体験活動では、事前学習を生かした学びが進められる。

連絡帳や電話により行われている欠席等の連絡、紙ベースで行われているアンケートの実施及び学校だより等の配布など、学校と家庭の間の連絡・情報共有においてオンラインを活用する。

オンライン会議

保護者会や説明会など、対面に加え、オンラインで学校と家庭がつながることで、会議や情報共有の効率化を図る。

【主なアプリ・コンテンツ】
Microsoft Teams

家庭における学び

家庭や学童クラブ、児童館、図書館など、学びの場を選ばずに、家庭学習や探究学習などが継続できる。

オンライン学習

タブレット端末を持ち帰り、動画やデジタル教材などを用いて授業と家庭学習を一体化させ、自分のペースで継続的に学ぶ。

【主なアプリ・コンテンツ】
navima ロイロノート

オンラインホームルーム

臨時休業などでも、オンラインで学校と家庭がつながることで、不安の解消や生活リズムの定着、家庭学習の確認などを行う。

【主なアプリ・コンテンツ】
Microsoft Teams

【概要】教育のDX化が急速に進む中で、子どもたちの可能性を引き出す個別最適。クラウド型の「学びのデジタル・プラットフォーム」(学習eポータル) を構築することで、学習ログ(学習履歴) や習熟度などの膨大なデータを総合的に評価し、指導に生かす仕組みをつくる。

令和の日本型教育の構築を目指して、適な学びと協働的な学びの実現を目指す。クラウド型の「学びのデジタル・プラットフォーム」を構築することで、学習ログ(学習履歴) や習熟度などの膨大なデータを活用して、学習方法や過程とともに、子どもたち自身が自ら学び続ける仕組みをつくる。

教職員の授業支援

デジタル教科書

電子黒板を利用して、教科書紙面や学習コンテンツ等を拡大提示したり、資料を児童・生徒に一斉送信したりして授業で活用する。

【主なアプリ・コンテンツ】
指導者用デジタル教科書

学習支援ツール

学習支援ツールを活用して、児童・生徒の考えや表現、学習記録等をグループや学級全体で共有して、学び合えるよう支援する。

【主なアプリ・コンテンツ】
ロイロノート SchoolTakt

学力調査(CBT)

CBTによる学力調査やテストを実施し、測りたい学力を的確に測定するとともに、教育データの収集・分析・利活用の充実を図る。

【主なアプリ・コンテンツ】
国・都・区学力調査 各種検定

意識・実態調査

オンラインによる意識・実態調査や学級経営調査を定期的実施し、教育データの収集・分析・利活用の充実を図る。

【主なアプリ・コンテンツ】
Microsoft Forms

※主なアプリ・コンテンツについては、令和4年3月現在のものであります。



発行

杉並区立済美教育センター

〒166-0013 東京都杉並区堀ノ内2丁目5-26

電話：03-3311-0021